物品の押し売りや寄付金要求

エセ同和行為には毅然たる姿勢を

これまで、行政や企業・個人への「エセ同和」による書籍の押し売りが連続している。近年では、ネクタイや傘などの物品の押し売り、さらには、全国水平社90周年を名目にした寄付金の要求などが横行している。これは、市民の「同和関係者は怖い」という差別意識を悪用し、同和団体を名乗り物品販売や金品の要求をするもので、直接的にエセ同和をおこなった側だけではなく、それに対して書籍の購入や寄付に応じた側の差別意識もあきらかになっている。とくに、企業では、業務上のトラブルに備えた「対策費」などによって対応してしまう場合が多く、個人においては同和団体の間違った認識のなかで対応してしまう状況がある。

こうしたことを防ぐには、しっかりとした人権意識をもち、同和団体を名乗ったとしても、必要のない物品や寄付の要求にたいしては「毅然たる姿勢」で対応をすることが重要だ。相手側からの執拗な要求をしっかり断ることや書籍・物品などが一方的に送られてきた場合は、「受け取り拒否」をし、部落解放同盟和歌山県連合会や行政の人権担当課などに連絡をすることが大切だ。

■2012年のエセ同和

5月21日（和歌山市）
和歌山市立加太少年自然の家に全国水平社90周年の冊子をつくるのに寄付してほしいと電話が入る。

6月5日（有田市）
全国水平社90周年関連書籍を購入するよう電話が入る。

7月30日（和歌山市）
同和運動関係者を名乗り「人権の強調月間」のとりくみに協力の寄付をしてほしいと電話が入る。

■連絡先

和歌山県連
TEL 073-473-2301
和歌山県企画部
（人権担当）
TEL 073-441-2560

（3頁よりつづく）

ならない」との支部要求にたいして市は、支部や県とも協力しながら課題解決に努めると回答した。中畑仁志・副市長は「いまなお差別事件が多発し、同和問題は確実に存在している。岩出市は同和問題解決のため、なおいっそう啓発や職員研修にとりくんでいく」とあいさつした。

■岩出市（10／24）
●項目の支部要求にたいしては「職員の資質向上に努める」と回答した。また、戸籍謄抄本等の不正取得事件が串本町でも発覚したことについて、来年1月に新宮市で実施される「本人通知制度」を参考に検討するとの回答があった。つぎに産業就労対策について、大型共同作業所の運営や漁業権の取得にたいする行政としての強力なバックアップを強く求めた。

■田辺市（10／25）
一昨年の5月に発生した企業での部落差別事件に関し、該当企業内の継続的教育啓発と今後のとりくみの具体化を要求した。また、大型共同作業場の就労問題について、産業就労対策の拠点として建設された経緯をふりかえり地区住民の雇用の最優先を強く要望した。市は、各隣保館を格として地元町内会や協力企業、更には県等の関係機関との連けいで地区住民の就労の場としての役割を果たすよう努めていくと回答があった。

連載（13）

「吾々は市政といかに斗うか」
―オール・ロマンス差別糾弾要項―

結局、結核は悪い、併し、ベッドは一杯だというので、三月も四月も、放っておかれる患者が部落には沢山いる。これらの患者が、今日入院させてくれるか、明日入院させてくれるかと待っている間に、市のおえらい人達のお声が、りの患者は、どしどしベッドを埋めていくというのが、現状ではないだろうか。これらのことは、何も部落に限ったことではない。勤労者であるすべての市民にとって、共通のなやみではないだろうか。

部落や西陣には結核が多い。これらの地帯は、生活も低いし、住宅も悪い。下水もないし、環境が全体として悪い。それらが原因して結核が多いのだと説明せられる。それなら根本的に衛生状態を改善して、なるべく部落や西陣の結核が少なくなるような手が、高山市政の方針としてとられているのだろうか。

部落には下水がないところが多いから、排水は非常に悪い。そこえ、側溝をこさえても、雨が一日ふれば、忽ちドブと道の区別がつかなくなるような状態だから、汚水は井戸にしみ込んでいく。おまけに、部落は水道が少い。それで、止むを得ず、そういう井戸水を使って、炊事をする。規則では飲料水には使用出来ないことになっているのだが、保健所は無関心である。左京保健所は、「部落の人達はなれているから、そんな水をのんでも大丈夫耐えられるようにできているんですなあ」と云って平然としている。これが保健所の環境衛生指導のやり方である。

部落の便所は、共同便所が多い。井戸に接近しているので、これではいけないというので、三条地区と錦林地区に、モデル便所をたてた。三条地区の便所は、工事費十五万円といわれ、コンクリートで作られているが、通風筒もなければ窓もない。だから、アンモニアが充満していて、一寸のぞいたゞけで涙がこぼれて使用するどころではない。錦林地区の便所は、廃材を使って立てたので、まだ一年もならないのに雨がもり、建物は荒れはて、野戦便所よりまだ悪い。勿論こゝも、通気筒も窓もない。高山市長は、いかにも立派な便所をたてたように宣伝しているが、どう考えても納得できない。

（次号につづく）